22国民春闘を如何にたたかう

国民春闘共闘　黒澤 幸一 事務局長

2月10日、小金井宮地楽器ホールで三多摩国民春闘勝利総決起集会（主催・三多摩国民春闘会議）が行なわれ、国民春闘共闘事務局長の黒澤幸一さんが「22国民春闘を如何にたたかうかと題して講演しました。その一部を紹介します。（文責、見出しも編集部）

大幅賃上げ・底上げで 希望をもてる公正な社会を

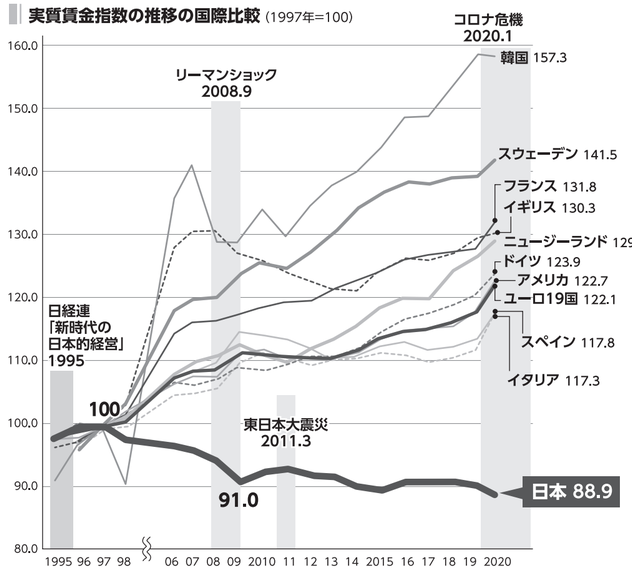
今年の国民春闘共闘のスローガンを「大幅賃上げ・底上げで誰もが希望をもてる公正な社会を」にしました。賃金をしっかり引き上げる、それにこだわる春闘にしようということです。また公正ないうことは、非正規差別やジェンダーの差別が日本では続いていますが、それを公正なものの変えていくこともスローガンに込めました。

左上の図は全労連発信で有名になったものです。1997年が日本の賃金のピークです。1997年を100とした時に、実質賃金はどうなっているでしょうか。国際比較をしてみると、韓国は157・3%上昇、1・6倍になっています。スウェーデンは1・4倍、フランス、イギリス、ニュージーランドは1・2～1・3倍、アメリカも1・2倍などです。

このようにOECD（経済協力開発機構、欧州、米日など先進37カ国）諸国は、この25年賃金上昇をとっている一方、日本はこの間見事に下がり続けています。

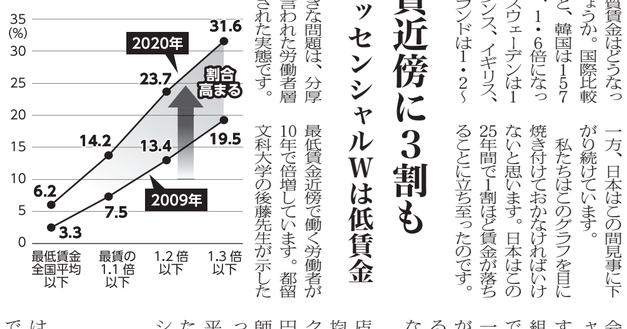
私たちはこのグラフを目に焼き付けておかなければいけないと思います。日本はこの25年間で1倍ほど賃金が落ちることに立ち至ったのです。

黒澤さん



最賃近傍に3割も エッセンシャルWは低賃金

そして大きな問題は、分厚い中間層と言われた労働者層が下層に流された実態です。



最低賃金近傍で働く労働者が10年で倍増しています。都留文科大学の後藤先生が示した数字よれば、最賃の1・1倍以下ではかると、7・5%程度だったものが、現在14・2%になっています。1・3倍以下ではかると、約3割の労働者が最賃近傍で働いているというのが実態です。

最賃近傍の労働者とは、最賃が上がると直結して賃金が上がる労働者です。最賃準拠型の労働者とも言うことができます。こういう労働者が日本の労働者の3割を占めるようになってしまったのです。

私たちが注目しているのはコロナ禍で働き続け、この社会を維持しているエッセンシャルワーカーの低賃金問題です。医労連（医療関係の労働組合）などでよく言われるのですが、このコロナ禍で年末一時金が削られるとか、賃金が下がった病院も出てきている、このようなことはありえないだろうと。

介護労働者、保育士、販売店員、バス運転手は全産業平均から月に7万円も低く、タクシー運転手に至っては10万円も低くなっています。看護師や保健師は全産業平均になっていますが、どこの国でも平均より2～3割高いのが当たり前です。これがエッセンシャルワーカーの実態です。

上がらない理由を考え打開へ

なぜ、日本の労働者の賃金は上がらないのかを、みんなでそこを考え、打開していく方向性を作っていかなければなりません。

この問、春闘の学習会で議論すると、「労働組合の弱体化だ。交渉力が低下しているのではないか」「財界・大企業と政府による分断、自己責任の強要があるのではないか」「労働者がモノを言えなくなっている」「非正規労働者がふやされたり、格差の増大がある。ジェンダーの格差も温存されている」「学校教育、主権者教育の破壊が影響を与えているのではないか」これらはすべて当たっていると思います。

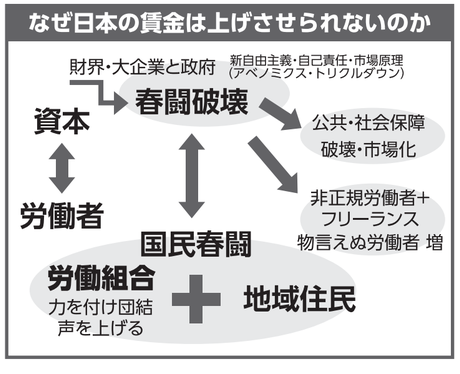
上がらない」「コロナだから仕方がない」と経営者は言いますし、私たちの頭にもよぎります。しかしここを乗り越えないと春闘は前に進めないと私は思います。

賃金をまず上げることを勝ち取る、このために何が必要か、それはやはり産別の統一闘争、あるいは地域での闘争にみんなで結集し、励まし合って横並びの連帯を作っていくことでしか前進はできないと、私は考えています。

産別統一、地域での闘いで励まし合い連帯する

しかし、こうした状態を作られたことを私たち労働組合、労働者が団結してはね返すことができていないことに気づかなくてはいけません。ここをしっかりみんなで作ること、それなしに打開していけないし、変えていくことはできないと思います。賃金は労使の力関係で決まるのだ、だから私たちが力をつける、そのような春闘にしましょう。

交渉が始まると、「うちの会社は儲かっていないから、要求しても無理」「会社がつぶれては元も子もない」「生産性が上がらないから賃金が



企業別の限界 春闘で克服

日本は企業別の労働組合が基本になっています。個別バラバラで、事業所の業績によって賃金が決められてしまいます。これではダメだから、みんなで力を合わせて、横並びも含めて、賃金の波及をはかっていく、相場の波及をはかっていくことを春闘という形でやってきました。その春闘という形を財界・大企業はこの30年間破壊してきました。新自由主義、自己責任、市場原理を持ち込んできました。大企業が儲かれば、必ず労働者にも賃金の「おこぼれ」がいくのだと、アベノミクスは続けられてきていますが、一切それは起きませんでした。

アベノミクスは「成功」していると思います。非正規労働者がふやされ、期限付きの働き方はモノが言えない状態に置かれています。

2021年度機関紙コンクール『ちから』（足立）が3連覇

東京土建

2月6日、東京土建教育宣伝部はけんせつプラザ東京で「2021年度機関紙コンクール」審査会を行ないました。厳正な審査の結果、各賞に輝いたのは以下の支部機関紙、仲間たちの記事と写真です。審査は、原陽一全国商工新聞編集長、向井光也年金者しんぶん編集長（前「けんせつ」編集長）、東海林智毎日新聞社会部記者、後藤英雄東京土建教育宣伝部長、三木勉「けんせつ」編集長の5人の皆さんで行ないました。なお、コンクールへの応募数は支部機関紙が33支部、記事が61記事、写真が46枚でした。

伝えたいことが明確 女性従事者の記事は秀逸

入選以上を受賞した各紙は、仲間を巻き込んで記事を書き、紙面を作っている、出し続けていることで上手になっている、全部の機関紙をほぼ1日かけて読んだが、飽きずに読めるくらいレベルが高いと評されました。その一方で三多摩支部が低迷しているとの指摘もありました。

3年連続で機関紙賞を受賞した足立支部「ちから」については、何を伝えたいのかが組合員にわかる、ジェンダー平等がめざされるなか、他の支部の機関紙でも女性従事者を取り上げているが、特に「ちから」に掲載された「私のふるさと」は、一般紙の記者が取材したいくらいの記事だったなど高く評価されました。

機関紙賞
「ちから」足立支部

特選
「おれたち」荒川支部
「土建しんぶん」墨田支部
「土建しんぶん」江戸川支部
「けんちく」渋谷支部
「けんちく」世田谷支部

入選
「土建しんぶん」江東支部
「けんせつ北部」板橋支部
「しんじゆく」新宿支部
「すぎなみ」杉並支部
「みちしるべ」三鷹武蔵野支部
「鉾杉」西多摩支部

記事賞・支部機関紙より（以下敬称略）
「笑顔が素敵なナイスガイ」佐々木出（足立）
「出産で感じた言い知れぬ不安」赤沼美穂（足立）
「紙芝居乃とら屋を訪ねて」並木義男、川又好一（荒川）
「平和への願い」林幸樹（墨田）
「福島原発事故から10年」柄澤耕一（練馬）
「平和を願う希望」近藤日登美（世田谷）

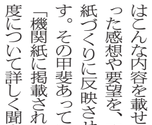
記事賞・けんせつより
2375号「『棄権すず投票』を訴え」加藤行夫（渋谷）
2340号「心に灯をともった光景」坂本正美（三鷹武蔵野）
2355号「父も工事に参加して」藤原俊男（西多摩）
2361号「小平でフードバンク」山内勝行（小平東村山）
2355号「住みやすい東京に」髙橋久美子（村山大和）

記事賞・「忘れえぬこと」より
2345号「桜を見ると思い出す」磯貝正昭（文京）
2351号「三軒両隣の深い絆」作田信義（豊島）
2346号「アクセル踏んだ私」小川治郎（北）
2357号「49年10カ月の日々」岩﨑一字美（品川）
2367号「無事に出産し安堵」佐々木庄樹（世田谷）
2354号「おじさんの顔に涙」岩上敏行（西東京）

写真賞
佐々木靖（足立）
白井正紀（世田谷）
髙橋美壽々（三鷹武蔵野）
畑山勝利（多摩西部）
木津谷真吾（清瀬久留米）

受賞者の喜び

仲間の会話のきっかけに


佐々木教宣部長（足立支部）

編集するにあたって大切にしていることがあります。それは、既存の型にとらわれず、組合員さんが読みやすいと思える魅力ある機関紙づくりをするということです。このことを念頭に「仲間の顔や写真を多く載せる」「興味を引く内容を掲載する」「文字の大きさフォントイラストの配置等のレイアウトにこだわる」ことで、読み手に身近な飽きのこない機関紙とするよう心掛けています。

また、仲間からの「最近は新聞読むのが楽しみ」「次回はどんな内容を載せて」と言った感想や要望を、直接機関紙づくりに反映させています。その甲斐あって最近では「機関紙に掲載されていた制度について詳しく聞きたい」などの支部への問い合わせがふえている他、機関紙の記事が仲間同士の会話のきっかけになっているとの報告が多くあり、機関紙の重要さをあらためて実感しています。

全建総連

『けんせつ』最優秀 支部、分会などでは20紙

全建総連の第25回機関紙コンクールの審査会は、1月31日と2月2日にWEBで行なわれました。東京土建の支部、本部の機関紙で見事に受賞となった機関紙は以下のとおりです。

★県連・組合、単組「A部門（月1回以上発行）、参加29紙」
最優秀賞
「けんせつ」東京土建本部
★支部「A部門（月1回以上発行）、参加144紙」
優秀賞
「ちから」足立支部
「おれたち」荒川支部
「けんちく」渋谷支部
「指金」中野支部
「けんせつ北部」板橋支部
奨励賞
「しんじゆく」新宿支部
審査員特別賞
「土建しんぶん」江戸川支部
「小平東村山」小平東村山支部
「けんせつ　こまえ　職人」狛江支部
「けんせつ北部」北支部
★青年部・主婦の会・シニア部門（参加59紙）
特選
「おおやぐち」板橋・大谷口分会
「北町奉行」板橋・大谷口北分会
「中央」板橋・中央分会
「おばんです」板橋・氷川分会
「志村坂上新聞」板橋・志村坂上分会
「コミュニティ前野中台」板橋・前野中台分会
「ひまわり」板橋・蓮根分会
「舟高新聞」板橋・舟渡高島分会
「新赤瓦版」板橋・新赤塚分会
「北赤通信」北・北赤羽分会
「なかま」北・赤羽分会
「ほうおう」北・豊王分会
「たにし」北・西午原分会
「シニア友の会」北・シニアの会
「かすが」練馬・春日分会
「おおぞら」練馬・高松分会
主婦の会
「主戸田分会だより」練馬・土戸田分会
「大泉東分会ニュース」練馬・大泉東分会
「四面塔」練馬・西大泉分会
「あけぼの」練馬・上石神井分会
「はなみずき」練馬・旭町光が丘分会
「新大泉分会ニュース」練馬・新大泉分会
「たけの子」練馬・新大泉分会主婦の会
「どんぐり」練馬・早宮分会
「なかむら」練馬・中村分会
主婦の会
「富士見台」練馬・富士見台分会
「魁」中野・のがた分会
「かみさぎ」中野・上鷺宮分会
「笑い薬師」中野・やくし分会
「井荻タイムズ」杉並・井荻分会
「中央新聞」杉並・中央分会
「浜福だより」杉並・浜福分会
「阿佐ヶ谷だより」杉並・阿佐ヶ谷分会
「せんなん」杉並・泉南分会
「小平東新聞」小平東村山・小平東分会
「MISONO」小平東村山・美園分会
「きたやま」小平東村山・北山分会
★オンライン活用インスタ賞
「東京土建町田支部さくら会」町田・さくらの会
審査委員特別賞
「東京土建一般労働組合渋谷支部」渋谷支部

2月6日、けんせつプラザ東京で行なわれた機関紙コンクールの審査会

2022 全国新年号
機関紙誌コンクール
日本機関紙協会

「主婦の泉」北・主婦の会
「むさ分会ニュース」練馬・田柄分会
「晋井分会ニュース」練馬・晋井分会
「みちくさ」練馬・桜台分会
「桜並木」練馬・学園分会
「わかば」練馬・石神井台分会
「石神ニュース」練馬・石神井分会
「ひだまり」練馬・石神井台分会主婦の会
「菜の花」練馬・石神井分会
主婦の会
「ねりまの母ちゃん」練馬・北大泉分会
「かたくり」練馬・北大泉分会
「南部の仲間」渋谷・南部分会
「井戸ばたかいぎ」渋谷・女性の会
「かなめ」中野・かなめの会
「主婦のちから」町田・さくらの会
佳作
「ほんでん」葛飾・本田立石分会
「青戸分会」葛飾・青戸分会
「中央」葛飾・中央分会
「みずもと」葛飾・水元分会
「女性の会かつしか」葛飾・女性の会
「大山」板橋・大山分会

詰将棋の解答

▲1一歩成△3一玉▲2三桂△同銀▲2一と△同玉▲2三竜△3一玉▲2二竜△4一玉▲5二銀まで11手詰。

〜〜〜〜〜〜

「MEN'S LINE」小平東村山支部青年部
審査委員特別賞
「女性の会　かつしか」葛飾支部女性の会
「井戸ばたかいぎ」渋谷支部女性の会
「あけくれ」渋谷支部シニアクラブ
「ねりまの母ちゃん」練馬支部主婦の会
「主婦のちから」町田支部さくら会（主婦の会）
「ザ・レディースあらかわ」荒川支部ザ・レディース荒川
「にじり草」板橋支部女性の会
「福寿草」板橋支部イキイキ会（シニアの会）
「かなめ」中野支部かなめの会（主婦の会）